

メディア情報工学科だより



2010年12月21日 第5巻第2号（通巻第14号） 沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科発行

学科近況

第7回沖縄高専フォーラムが「画像・音声メディアと可視光通信について」をテーマに、11月25日にロワジールホテル那覇で開催されました。今回はメディア情報工学科が幹事学科であり、姉崎先生が中心となって企画・運営にあたりました。当日は可視光を用いた水中での音声・画像情報の伝送技術、本技術の水中ロボットへの適用等について講演とディスカッションが行われ、本校の産学連携の取組みを広く知っていただくことができました。本科1年から5年、専攻科の状況は各学年の話題をお読み下さい。それでは、良いお年をお迎え下さい。

（平成22年度メディア情報工学科長：角田 正豊）



各学年の話題（専攻科生）

学級状況について

専攻科の修了生は大学評価・学位授与機構の実施する審査に合格すると大学卒業生に与えられる「学士の学位」と同等の学位が授与されます。専攻科2年生は学修成果レポートを作成し、10月初旬に当該機構に学位審査を申請しました。学修成果レポートのテーマ名は次の通りです。安里梓：「SVMを利用したWAFの検知手法の提案」、榮門恒希：「QRコード認識を活用した人追従ロボットの開発」、喜納希美：「GPSと方位センサを利用したロボットの誘導」、鈴木裕太：「画像処理を用いた飛行型移動ロボットの開発」、山田親佑：「画像処理を用いた活動量計測システムの構築」。提出した学修成果レポートについての小論文試験を、福岡で12月19日に受験します。本校後援会から旅費の補助を受けました。後援会の皆さまに感謝します。審査の判定結果は2月に通知されます。5名全員が専攻科修了証と共に学位記を持って専攻科から巣立ってくれることを祈っています。

専攻科1年生も2年生に劣らず熱心に専攻科での研究に取り組んでいます。これまでの研究成果を外部の人に発表する機会を持ちました。下地寿弥君と

平安名啓太君が9月に那覇で開催された電気学会次世代産業システム研究会で、「会議室案内ロボット」に関する発表を行いました。また、11月に開催された沖縄高専フォーラムでは、上江洌諒君が「合成開口レーダで得られた沖縄本島のデータの解析」について発表を行いました。

（専攻科情報工学コース長：角田 正豊）



各学年の話題（5年生）

学級状況について

大部分の学生は進路も定まり、残る学生生活を謳歌しようという状況です。ただ、別項にもありますように進路を定めず越年する学生もいます。皆様のご配慮をお願いする次第です。

5年生の後学期は卒研中間発表で始まり、卒業論文提出で終わります。卒研中間発表は、10月20日午後と10月22日午後に分けて実施しました。1人当たり10分間で発表と質疑応答を行い、20日は31名、22日は16名、合計47名が発表を行いました。全員活発な質疑応答を行い、無事終了したことを報告いたします。

後学期の最大のイベントは高専祭です。今年5年生はウイルスバスターズという映像作品を出展しました。全員長期間の準備期間にわたりよくがんばり、結果として、映像祭【グランプリ】とクラス企画【1位】を得ました。詳細を記す代わりに、写真を載せます。順に出展の様子と看板ポスター、映像祭グランプリのトロフィー、そして終了後の集合写真です。



高専祭で好評だった5年生（上段左：作品上映会場、上段中：ポスター、上段右：映像祭グランプリのトロフィー、下段：集合写真）

後学期残るイベントは卒業研究です。まず、最終発表会を2月4日午後と2月7日午後の2日に分けて実施します。ここでも、一人一人発表を行い、内容を評価します。これを踏まえて卒業研究論文（卒論）を纏めます。卒論の提出期限は2月25日を予定しています。卒論は一生に一度のモノとなります。皆さん心して取りかかって欲しいと望みます。

卒業式について

卒業式は3月19日(土)に行う予定です。卒業アルバムの作成、卒業式後の学生主催イベントの企画等を進めているようです。卒業式には多くの保護者のご出席をお待ちしております。

（メディア5年担任：姉崎 隆）

就職・進学について

5年在学生48名のうち、就職希望者が32名(67%)、進学希望者が16名(31%)です。就職希望

者のうち23名が内定し内定率は71.9%となりましたが、まだ9名の学生が就職活動を継続中です。内定を得た企業は、県外が14社15名、県内が8社8名となっています。

また、進学希望者のうち15名が合格し進学決定率は93.8%となっています。進学先の内訳は、県外大学3年次編入が6校7名、琉球大学3年次編入3名、県外専門学校1校1名、専攻科4名となっています。

今年度は長引く不況の影響もあり、就職内定率が厳しい状況となっています。引き続き保護者の方と連携して進路指導を進めていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

（就職・進学担当：伊波 靖）



各学年の話題（4年生）

学級状況について

夏休みには無事にインターンシップが実施され、その後、10月上旬にはインターンシップ報告会が行われました。4年生達は、企業で学んだことや経験したことを発表し、人間的に大きくなった姿を私たちに見せてくれました（詳しくは後述）。そこで安心する暇もなく、11月には研究室配属と高専祭、そして12月上旬には後学期中間試験と、立て続けに重要な学校行事が行われました。

まだ記憶に新しい高専祭では、映像作品を上映しました。タイトルは「oMnibus」です。作品の内容は「メディアでっか!?TV」と題した架空のTV番組で、視聴者から投稿された映像を見ながら司会者とコメンテーター達がコメントを付けていく、というものです。4年生達は少人数のチームに分かれて、アニメからスポーツチャレンジもの、ドラマ仕立てのものなど、様々なショートムービーを一生懸命制作しました。1日目と2日目のそれぞれで作品を多くの方々にご覧になっていただき、大盛況のうちに無事終了しました。

卒研配属について

基本的に、学生の進路指導は卒研担当教員が行い、進路委員の教員がバックアップを行います。後の方でも述べていますが、4年生は早ければ冬から就職活動を始めることになります。そのため、メディア情報工学科では冬直前に研究室配属を行います。以下に配属先一覧表を示します。なお、タンスリヤボン・スリヨン先生は来年度1年間の海外研修

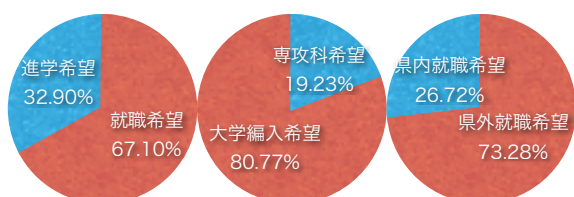
に出られるため、研究室への学生の配属は行われませんでした。

各研究室の配属学生一覧表

研究室 (教員名)	配属学生	
姉崎 隆	伊波 香純	大城 よしほ
	鋤本 拓海	座喜味 悠介
角田 正豊	赤嶺 貴野	石川 拓史
	金沢 洋輝	古堅 沙弥乃
正木 忠勝	伊佐 亮	下地 愛絵
	澤岨 祐貴	山根 誓史
伊波 靖	上原 佑介	大川 雄生
	瀧澤 勇生	永嶋 一帆
西村 篤	伊礼 愛美	上原 栄樹
	末次 みなみ	宮里 定尚
太田 佐栄子	久米 剛弘	平良 優香里
	宮城 一真	宮城 将
玉城 龍洋	安里 順貴	稲福 智秀
	清末 尊	瀧元 栄人
鈴木 大作	内間 和季	平良 優乃
	知念 憲太郎	宮城 萌
佐藤 尚	久手堅 紗彩	仲宗根 翔子
	山田 弘人	
バイティガ ザカリ	渡慶次 茉莉子	屋良 朝紀
	バンニウオン アヌック	

進路について

就職活動は4年生の冬から始まります。進学の場合、専攻科推薦選抜が5年生になって直後の4月、学力選抜がその翌月の5月、そして大学3年次編入学試験も早いところでは5月くらいから始まります。もうのんびりできる時期ではありません。少しでも早く多くの情報を得て、自分の進路について考え、準備をしなければなりません。進路についてしっかり考えてもらうことを目的に、11月15日に行った進路アンケート調査の結果を以下に示します。ご家庭でも進路についてはよく話し合ってくださいよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。



(メディア4年担任：佐藤 尚)

インターンシップについて

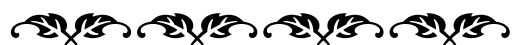
平成22年度のインターンシップは、休学を除き在籍する学生全員が県内外企業での就業体験実習に取り組み、10月6日に実施したインターンシップ報告会でひとまずの区切りとなりました。報告会では、学生それぞれが主体的に実習に取り組み、学校では得られない体験と感動を得たことがうかがえました。貴重な体験をそれぞれの将来に活かしてもらいたいと思います。



インターンシップ報告会終了後の記念写真

株式会社リウコム、株式会社国際システム、沖縄テクノス、株式会社沖縄タイムス、株式会社シュガートレイン、株式会社PUREWORKS、株式会社オルタスジャパン、株式会社エイティング沖縄、独立行政法人海洋研究開発機構国際海洋環境情報センター、沖縄コンピュータ販売株式会社、株式会社レキサス、株式会社リウボウインダストリー、NTTネオメイト九州支店、株式会社エムアイシー沖縄工房、アイフォーコム株式会社、株式会社リンクアット・ジャパン、富士通株式会社、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社アイ・テー・シー、有限会社イングデザイン研究所、株式会社アニメトロニカ、株式会社アジャスト、の各事業所様（順不同）には、ご多用の中対応して下さったことに心からお礼を申し上げます。

(メディア4年副担任・インターンシップ担当：西村 篤)



各学年の話題（3年生）

学級状況について

<高専祭について>

今年の高専祭では、3年生は創作劇を行いました。3匹の子豚のストーリーをモチーフに、仮面ライダーやショッカーも登場する奇想天外なキャラクタ構成の劇で、約20分間の上演を行いました。会場となった体育館は観客で満員！、とまではなりませんが、初日・二日目と二回の上演にはたくさんの観客の皆さんに観覧して頂き、学生たちも一生懸命それぞれの役を演じました。また、当日の出番はなくても、美術担当を中心に3匹の子豚たちの家を段ボールで制作するなど、当日の上演に向けた影の主役たちの活躍が支えになりました。シナリオ制作、美術担当、音響担当などの役割分担を行い、各担当ごとに協力し合って一つのものを作り上げていく作業は、クラスの団結やかけがえのない思い出作り、そして一人ひとりの成長の糧となった事と思います。

<研修旅行について>

3学年における大きなイベントの一つである研修旅行が、12月4日（土）～12月7日（火）に実施されました。今年は12月開催のため、冬の寒さとインフルエンザの感染などが心配されましたが、幸いにも東京の気温は例年より暖かく、前日の台風並みの低気圧も立ち去るなどの幸運にも恵まれ、怪我や体調不良者を出すことなく無事に終えることができました。

初日の全日空整備場見学は、学生たちの中でも最も印象に残った見学地となったようです。通常は土日の見学は休業ですが、今回の沖縄高専の4学科での見学のために開業して頂き、普段は見ることでできない整備の風景や、間近に見る大きな機体に学生たちも興奮気味でした。そして終了間際には、整備場の巨大な扉の隙間から見える夕日に、クッキリとした富士山のシルエットが浮かび上がっていたのが印象的でした。



整備場での集合写真

今回の研修旅行では、初めての試みとして、東京やその近郊で生活するメディア情報工学科の卒業生との懇談会を企画しました。ホテルでの夕食の場に、就職した社会人と進学した学生を計5名招き、1テーブルあたり12名の学生に対し1～2名の割合で、できるだけ堅苦しくならないよう自由に質疑応答や意見交換を行ってもらいました。学生からは、実際に社会に出た先輩から職場の雰囲気や仕事の様子などを具体的に聞くことができた、自分の将来像や今後の進路について考える良いきっかけになった、などの意見が寄せられ、卒業生からは、学生のためになるのであればこれからも是非協力したい、などの意見が寄せられました。

短い時間ではありましたが、学生たちにとって少しでも就職や進学に対する意識の涵養が図れ、また卒業生にとっても母校のために自らの経験を活かし貢献する喜びを味わう機会となった事と思います。



卒業生たちとの夕食会

2日目の自主研修は、グループ単位で企業や美術館、大学などの施設見学を自分たちで企画し、目的地までの経路や所要時間などを調査するなどの事前学習を行い取り組みました。多くの学生が東京は初めての訪問ではありませんでしたが、自分たちの力で所要時間を計算した行動計画を練ったり、実際に電車を乗り継いだりした経験は、今後の就職や進学活動を行う際の手助けとなると思います。

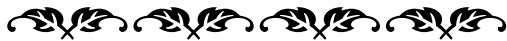
また、3日目の日本ユニシス株式会社の企業視察では、スーツで身を引き締めた学生たちが、前日の自主研修で疲れた眠い目をこじ開け、企業の方の業務内容の説明に聞き入っていました。この経験を活かし、学生たち自らが就職して働くということに対する意識づけができればと期待しています。

<3年生から4年生への進級要件について>

3年生から4年生への進級要件は、（1）2年生ま

での全科目が修了、(2) 仮進級が認められる未修得の科目の単位数が4単位以内（他学年では10単位以内）、と厳しい要件になっています。学年を通じてのこれまでの成績を踏まえ、試験の成績が良くなかった科目については、毎日の予習復習をしっかりと行うなどの自学自習の習慣づけや、後学期期末試験に向けた試験対策を、すぐにでも始めることが重要です。また、朝の寒さで起きられなかったり、体調を崩して授業を遅刻したり休む学生が増えるのもこの季節です。特に一人でアパート生活する学生は注意が必要です。お子様の成績通知表をご覧になる時は、点数だけでなく、各科目の出席状況についてもご確認いただき、遅刻や欠課が目立つ場合には、生活の状況や健康管理などについてもご家庭で話し合ってくださいと思います。

（メディア3年担任：鈴木 大作）



各学年の話題（2年生）

学級状況について

高専の2年生は入学当初の目標を忘れ、自分を見失いがちな学年です。そのため、6月30日の学科別LHRでは5年生の先輩数名に自分の高専での学校生活や卒業後の進路などを直接話してもらう機会を設けました。5年生の自分の体験を元にしたアドバイスを熱心に聞いている様子が印象的でした。また、10月13日の学科別LHRでは5年生の卒業研究中間発表会を聴講しました。卒業研究の内容についてはまだ理解できないところもあったと思いますが、3年後の自分の姿をイメージできたようです。

最近、授業の遅刻や欠課が目立つようになってきました。生活面での乱れがあるようです。2年生のうちは寮での生活のため、友人が朝起こしてくれたり、欠課についてお互い注意しあうこともできますが、3年生になって寮を出て、アパートで生活する学生も出てきます。寮を出ると朝起きられなかったり、軽い気持ちで学校を休み、それが原因で留年となる学生が毎年数名います。寮を出ることを考えている学生は今のうちに自分を律することが出来るようになることが大切です。ご家庭の方でも注意していただくようお願いします。

（メディア2年担任：正木 忠勝）



各学年の話題（1年生）

学級状況について

高専に入学して初めての冬休みを迎えます。後学期中間試験が終わったばかりですが、2ヶ月後にはもう春休みです。高専に入学してほぼ1年経つことになります。中学生の時の高専に入学したいという思い、入学したときの希望にあふれる思いを、冬休み中にもう一度思い出して欲しいと思います。中学生時代の友人と話をしてみると、高専でどれだけのことを学び、自分がどれだけ成長できたかを確認出来るはずですよ。高専での5年間は長いようでいてあっという間に終わります。沖縄高専で様々なことにチャレンジして欲しいと思います。もし、これまで授業を受けていただけで他には何もせず過ごしていた人は、何かやりたいことを見つけて取り組んでください。冬休みのこの機会にご家庭でも高専に入学してからのことを話し合っていていただきたいと思います。学校の授業のこと、学校生活のこと、不安に感じられることがあれば学級担任、学科担任に遠慮無くご相談ください。

（メディア1年担任：バイティガ ザカリ）



その他の学科内の話題

資格試験について

10月17日に実施された情報処理技術者試験にメディア情報工学科から60名の学生が挑戦しました。情報処理技術者試験はIT分野の技術者を対象とした国家資格試験です。ITパスポート試験に11名、基本情報技術者試験に2名、応用情報技術者試験に2名が合格しました。おめでとうございます。合格者は下記の通りです。【ITパスポート試験】久手堅紗彩(4年)、前津勇輔(3年)、上原幸竜(3年)、山川春香(2年)、照屋のぞみ(2年)、比嘉基貴(2年)、荻堂修太(2年)、長嶺伸(2年)、宮里和裕(2年)、仲嶺真豪(2年)、阿野竜也(2年)【基本情報技術者試験】前當祐希(5年)、大城優(5年)【応用情報技術者試験】諸見里圭太(5年)、山内祥平(5年)

（資格試験担当：正木 忠勝）

コンテストについて

・高専プロコン

10月16、17日に高知県松山市で開催された全国高等専門学校プログラミングコンテスト（高専プロコン）の競技部門に5名（内メディア情報工学

科4名）の学生が参加しました。1回戦敗退、敗者復活戦敗退という結果でしたが、全国の舞台で力を出し切ってがんばってくれました。参加した学生は次の通りです。伊佐亮(4年)、宇江城貴仁(3年)、名渡山南(3年)、日熊悠太(2年)

・パソコン甲子園

11月6、7日に福島県会津若松市で開催されたパソコン甲子園のデジタルコンテンツ部門とプログラミング部門の本選に出場しました。パソコン甲子園は全国の高校（高専は3年生まで）を対象にしたパソコンの技術を競うコンテストです。デジタルコンテンツ部門は全国から45作品の応募があり、10作品が本選に出場します。本校は4年連続本選出場しています。本学科から3年生の平良沙織と與那嶺まこ、情報通信システム工学科の3年生1名の3名のチーム名「simsa」が本選に出場しました。結果は惜しくも受賞を逃したものの審査員の講評では高い評価を得ることが出来ました。プログラミング部門は全国から424チームが応募し、20チームが本選に出場できます。本学科からは新垣杏里(3年)、日熊悠太(2年)のチーム名「童熊と大吉」が出場しました。結果は10位入賞と大健闘しました。

・EPOCH@まつやま

11月27、28日に愛媛県松山市で開催されたEPOCH@まつやまに1年の呉屋寛裕と照屋大地が出場しました。EPOCH@まつやまは愛媛大学が主催する大学生以下を対象としたプログラミング技術を競う大会です。全国から大学生を主として177チームが予選に参加し、20チームが本選に出場できます。本学科からは1チーム「3年保障」が本選出場を果たすことが出来ました。結果は受賞等はありませんでしたが、他のチームのほとんどが大学生チームという中、最年少チームとして健闘しました。来年が楽しみです。

・MDDロボコン

2010年10月25日～29日に第7回目の「MDD (Model Driven Development=モデル駆動開発) ロボットチャレンジ2010」が、東京都・国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。情報処理学会主催で情報技術やソフトウェア開発に関する教育と研究を目的として、小型飛行船を題材に行われる飛行船コンテストです。離陸してから、指定の立ち寄り点（2箇所）を通過して、ゴール着陸まで、人間を介さないで全て自律飛行の競技です。

沖縄高専のチーム「The Goships」が唯一高専生のチームで、大学生・大学院生または企業のチーム（合計17チーム）を相手に戦いぬぎ、今回は以下の2部門から受賞出来ました。なお、去年は初参加で、「飛行競技部門」で飛行競技奨励賞を受賞しました。

1. 「飛行競技部門」→ 準優勝
(日本IBM(株)チームが優勝)
2. 「相撲競技部門」→ 準優勝
(徳島大学工学部機械工学科チームが優勝)

沖縄高専チームの特徴は、飛行船にカメラを搭載し、QRコードをリアルタイムで認識しながら立ち寄り点やゴールを探索するというもので、斬新なアイディアと技術の高さで会場を驚かせました。沖縄高専または沖縄県のIT人材教育に関して良いアピールが出来ました。

チーム「The Goships」のメンバ（4名）：

1. 島袋誠也（メディア情報工学科5年生）
 2. 比嘉恵介（メディア情報工学科5年生）
 3. 津波古渉太（メディア情報工学科5年生）
 4. 備後博生（機械システム工学科4年生）
- (コンテスト担当：タンスリヤボン スリヨン、正木 忠勝)



編集後記

「メディア情報工学科だより」は、1学年以上の学生をお持ちのご家庭を対象に、年2回（6月と12月）発行している学科通信です。1期生が3学年となった平成18年度に刊行し、今年度で5年目となりました。ご意見ご要望がございましたら、是非下記連絡先までお知らせ下さい。また学校に対してお持ちの疑問・要望、また他の保護者の方々にも知って欲しいことなどを投書して下さることも大歓迎ですので、是非お気軽にお便りをお寄せ下さい。

【編集担当者連絡先】

〒905-9021 沖縄県名護市辺野古905番地

独立行政法人 国立高等専門学校機構

沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科 佐藤 尚

TEL: 0980-55-4003 (代) FAX: 0980-55-4012 (代)